



RAKUWA
lecture of health

第67回 らくわ健康教室

2011年9月6日



歯と口腔の健康のお話

～ 赤ちゃんから高齢者の方まで ～

洛和会音羽病院
京都口腔健康センター センター長 よこ え よし ひこ 横江 義彦



子どもたちのために、未来へ…

洛和会ヘルスケアシステム®

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院
洛和会音羽記念病院 洛和会みささぎ病院



RAKUWA
lecture of health

歯と口腔の健康のお話～赤ちゃんから高齢者の方まで～

人の一生は歯・口腔との長いつきあい

①乳児期

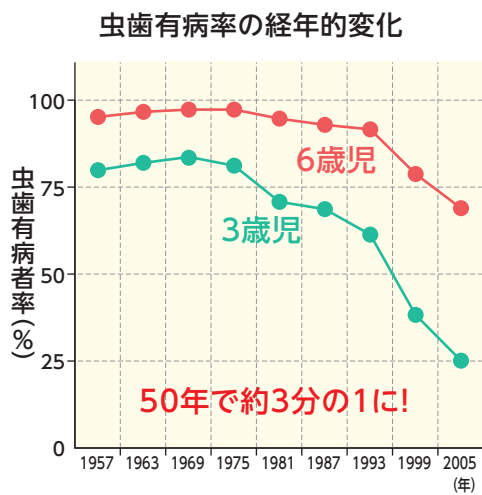
口から食べる（経口摂取機能）準備として、

- 授乳を通じての口腔機能の発達
- 指しゃぶりや玩具なめなどによる、口への触覚刺激による哺乳反射（口に触れるものに吸いつこうとする反射）の消失

などを促します。

②幼児期～学童期

幼児期～学童期:歯みがき習慣と虫歯、口腔悪習癖の発見と解決



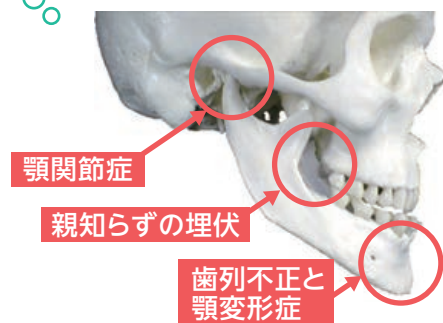
歯磨きの習慣をつけ、虫歯、口腔悪習癖を発見し、解決しなければいけない時期です。

今の子どもが、虫歯にかかっている率は、1950年代と比べ、3分の1ほどに減っています。

③思春期・青年期

思春期:顎関節症、歯列不正と顎変形症

過去から現代へ:生物として人間の退化? 進化?

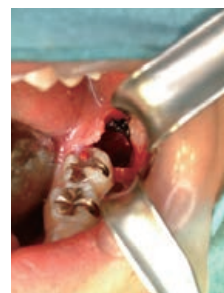
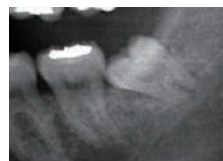


この時期の特徴的な病気は、

- 顎関節症（あごの周りの関節の異常）
- 歯列不正（悪い歯並び）と顎変形症
- 親知らずの埋伏（まいぶく歯肉の中に埋まっている状態）

などです。

たかが親知らず、されど…



妊娠中などはX線も撮れない、薬を飲むのも控えたい、手術で早産に影響?

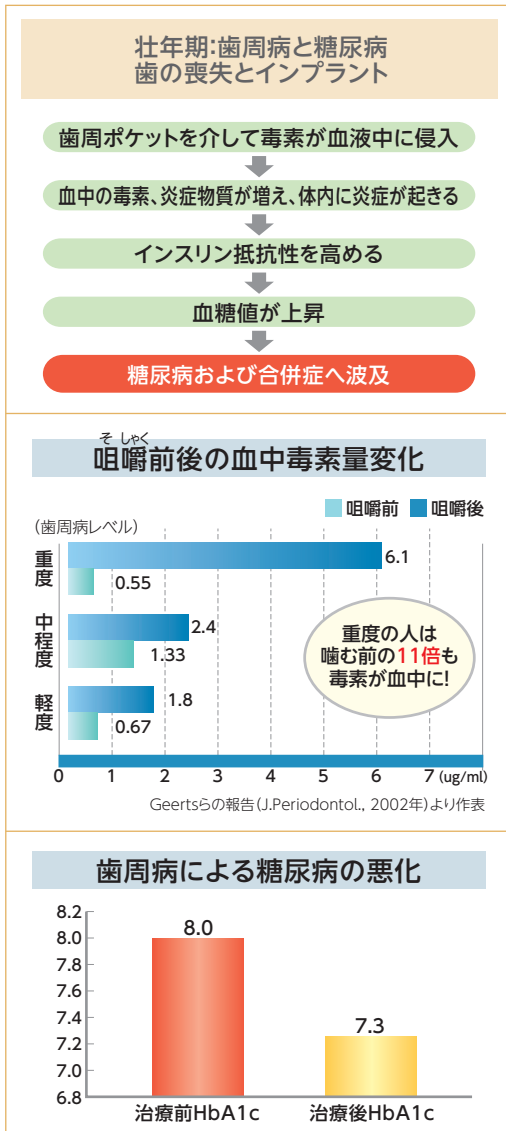
年に何人かは親知らずが原因で亡くなっている。

抜歯が必要かどうか、歯科医の診断が必須

特に、埋伏歯は、歯の周囲炎をしばしば起こし、命に関わる炎症を起こす危険性もあります。



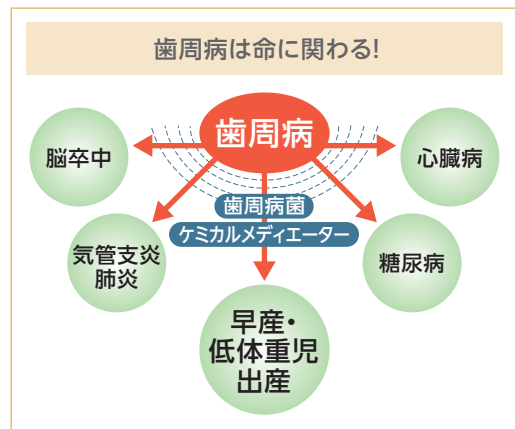
④ 壮年期



歯周病に要注意 - 命に関わることも -

歯周病になると、歯周ポケット（歯と歯茎の境目の溝）を介して、毒素が血液中に侵入し、血中の毒素、炎症物質が増え、体内に炎症が起きます。結果、糖尿病の発症・悪化、

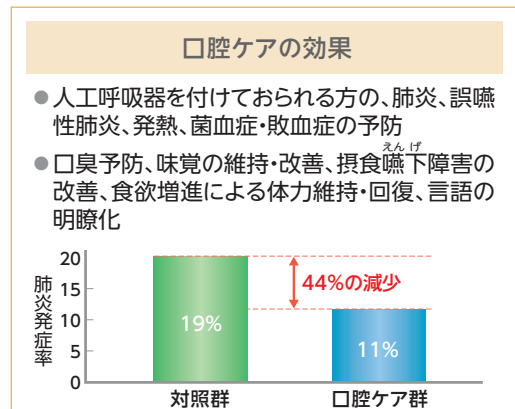
脳卒中、気管支炎、肺炎、心臓病、早産、低体重児出産など、さまざまな合併症を引き起こします。



⑤ 高齢期

口腔ケアによる、肺炎や口腔がんの予防が重要です。

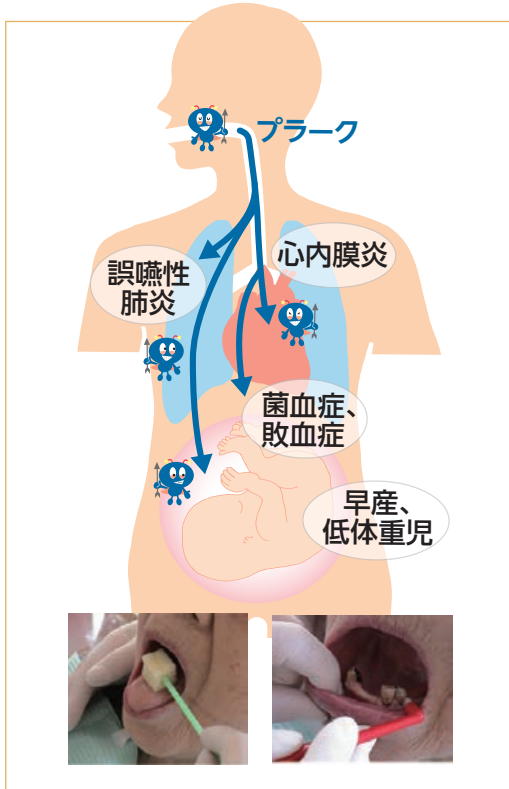
口腔ケアの効果



現在、平均62歳とされる頭頸部がんの発症年齢に、団塊の世代が達し始めているため、今後、頭頸部がんの患者数の増加が予想されます。



患者さまの口腔ケアを行うことが、肺炎をはじめ多くの合併症の予防につながり、全身機能を高め、入院日数の短縮につながるといわれています。特に、肺炎の発症率は、口腔ケアを行うことで、半分に減少するというデータがあります。



口腔の健康から体の健康へ ～いつまでも若く楽しく～

★食べる楽しみをあきらめないために

- 食べる = 味わう、生きている証し。人との意思疎通に大事な役割を果たすのが歯と口腔の機能です。

★8020運動

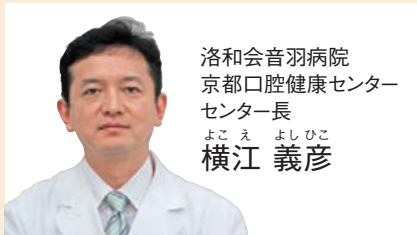
- 80歳で20本の歯を残しましょう！（20本以上の歯があれば、食生活にほぼ満足することができるといわれています）

★噛めることは体と心の健康の証し

- 糖尿病の予防、誤嚥性肺炎の予防、認知症発症の予防。
- 健康長寿社会をめざすということです。



講師プロフィール



専門分野

口腔外科、成人矯正を担当。口腔外科の中でも特に顎変形症治療（反対咬合や上顎前突といったアゴの変形の修正手術）を専門とする。

専門医認定・資格など

- 日本口腔外科学会専門医 / 指導医
- 日本顎関節学会専門医 / 指導医 / 代議員
- 日本がん治療認定医機構暫定教育医
- 日本外傷歯学会認定医 / 理事
- 日本顎変形症学会評議員
- 京都大学大学院医学研究科口腔外科学分野非常勤講師
- 京都府病院歯科医会会長 ● 臨床研修指導医